

東北応援ツアー福島・相馬コース

現地を訪問して思うこと

横山孝夫

私は長野県の高等学校の社会科の教員です(主に地理を担当)。震災後、東北地方を訪ねるのは今回で6回目でした。2012年の5月、8月、2013年5月、7月、8月と個人でまたは長野県内の高校の教員で組織する研究会で岩手県・宮城県を訪ねた。この11月、この東北応援ツアーで初めて福島県を訪れたのだが、いずれにおいてもまず真っ先に感じたことは、「兎に角現地へ行くべきである。それもできるだけ早い時期に」ということである。前回の研究会で宮城県石巻市から気仙沼市、岩手県陸前高田市等を視察したのも同様の理由からであった。まずは現状を知ること、そして今自分たちには何ができるかを考え行動に移すこと。現場に赴き、犠牲者に対して手を合わせ、そして現地の人々の話を聞く。たんなる同情ではなく被災の教訓を生かすためにも、被災の状況やその後の復興に頑張っている姿を自分の目で是非見てほしい。そして、お互いに元気を分かち合いたい。同じ場所に半年後、1年後に行けば復興の様子も見えてくる。(所によっては、1年前と何ら変わらない場所もあるが・・・)

福島をはじめ東北地方を訪ねて思うことは、長野県と違って海と山の幸が豊富であること。豊かな海産物と里の幸・山の幸のダブルパンチである。山の幸や果物・野菜は信州も引けを取らないと、思うが、海の幸とのコラボは何とも言えない。魅力満載の地である。あの未曾有の震災から必死に立ち直ろうとしている人たちに(同窓生を含め)私たちはできる限りの支援をしていきたい。もちろん現場に行かなくてもできる支援はある。一番は経済的支援であるが、東北地方は今や食料品・生活用品・鯉化製品等日本の製造業の拠点の一つであり、様々な物品を購入することで被災者への支援に繋がればと考える。年末には東北支援のカレンダーも売り出されている。が、やはり現場へ出かけましょう！！

今回のツアーで私の心に突き刺さった言葉が一つある。ツアー初日の午後のバスの中、広島出身の方の言葉である。宮城・岩手両県と違い福島県は地震と津波の他に原発の被害を受けてきた。被爆体験をされた方のその一言である。『原発の事故に対する問題に対しては正しい知識を持ち、正しく対応する。最大の被害は被爆者に対する差別である』。来年には7回目の東北視察を考えている。